

# はじめに

専務理事 鮫 島 薫



わが国が商業用原子力発電を開始して30年余が経過し、いまでは高レベル放射性廃棄物処分に代表されるバックエンド対策の確立が、残された重要課題となっている。これは、わが国だけではなく海外でも同様な状況下にある。今後とも、原子力発電に依存していかなければならないわが国にとっては、特にその解決に向けた研究開発が必要である。

前回の電中研レビュー「原子燃料サイクルの確立を目指して」を刊行してから、10年余が経過した。この間、わが国では、低レベル放射性廃棄物の埋設開始、使用済燃料の中間貯蔵や、高レベル放射性廃棄物処分の法制度整備などの前進があった。

これらの動向を踏まえ、常に少し先行するようなタイミングで、当研究所はバックエンド研究に取り組んできた。広範囲にわたる専門能力を全所的に糾合した推進体制のもとで、電気事業者、国ならびに内外の関連機関と密接に連携をとり、効果的な研究推進に努めてきた。その結果、バックエンド技術にかかわる多くの成果を得ることができた。

当研究所は、バックエンド技術について、すでに30年に及ぶ研究を進め、得られた種々の成果は電気事業や国に寄与しており、今後も重点をおいていく分野の一つである。このようなことから、前回の電中研レビュー以降11年の間に得られたバックエンド研究を、取りまとめ公刊することとした。これにより、皆様からのご意見を伺って、なお一層的確な研究開発を推し進めていきたい、と考えている。